

我孫子市環境レンジャー通信  
No81  
(令和3年10月発行)

# たまっけ

(発行)  
我孫子市環境レンジャー  
(連絡先)  
我孫子市手賀沼課  
04-7185-1484(直通)

「たまっけ」とは昭和35（1960）年頃まで手賀沼でもたくさん棲んでいたカラスガイのことで、今はほとんど見られません。環境レンジャーは、我孫子の自然環境を市民に伝え、市民といっしょに考え、守り育ててゆくために結成されました。みなさん、いっしょに美しい我孫子を守り育てましょう。

## 《 特集 》

### 我孫子市と手賀沼 — 古代から中世までの様子 —

(環境レンジャー 荻野 茂)

#### (1) 古代後期から飛鳥・奈良・平安時代

第1回は古代の様子にふれました。第2回は飛鳥・奈良・平安・鎌倉・室町時代の様子にふれてみます。

古墳時代（3世紀から7世紀）にかけて日本列島で大きな権力を有した大王（オオキミ、のちの天皇家につながる）や大和地方の有力豪族は、各地の地方豪族を支配下におさめる際に、豊かな土地を直轄地とし、そこに住む人々から貢納物を納めさせました。

房総と大和王権との関係は5世紀までさかのぼります。「王賜」銘鉄剣は大和王権から房総の一豪族に賜与されたもので、大和王権との緊密な関係が成立していたことがわかります。645年の大化の改新前後から1180年の源頼朝の挙兵の前年までの500年の千葉県歴史をみると、現在の千葉県域は安房国、上総国、下総国に属しており247にのぼる遺跡が残されています。古代の行政区分では全国を六十余国に分け、さらに各国をいくつかの郡に分けていました。郡は税の徴収、戸籍の編さんなど、いわゆる「律令政治」の基礎を担っていました。

房総には11の国造が知られています。房総の国造の特徴は直姓を持つものが多く、領域の範囲は小規模な国造でした。また部民の所在地が確認できる郡・郷として、我孫子に関係する部民、久須波良部は文献等に記載される所在地郡として相馬郡、記載のある遺跡として、新木東台遺跡・西大作遺跡、羽黒前遺跡があげられます。

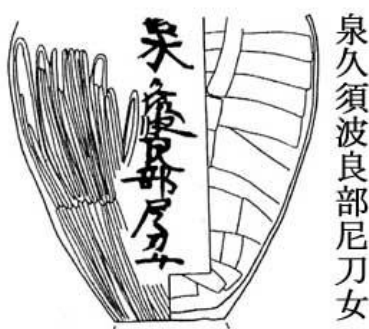


図1 新木東台遺跡の人名墨書土器

「正倉院」には「下総国倉麻郡意布郷養老五年戸籍」（721年）に意布郷は藤原部の姓で形成され、また「続日本紀」（727年）に藤原部が「久須波良部」と改姓された記事があり、「意布郷」と「久須波良部」の文字が意味することは、「続日本紀」の記事の裏付であります。

#### ・平安時代の様子

939年に平将門・藤原純友の乱がありました。朝廷に対して叛乱を起した平将門を討伐するため、僧、寛朝を現在の成田山新勝寺へ使わせ、乱の鎮圧のため動護摩の儀式を行わせました。つまり、新勝寺参拝は将門を苦しめる事となるため、成田山へ参詣をするならば、道中に必ず災いが起こるとの言い伝えがあり、将門に対する信仰心は、祟りや厄災を鎮めることと密接に関わっていたようです。その将門伝説は茨城県が最も多く、千葉県では市原市に次いで我孫子・沼南町に多く残されています。日秀地区には将門神社、将門の井戸、日秀観音、首曲がり地蔵など将門に関連付けた伝承が残されていることは、この時代の様相を示す貴重な史実であるともいえます。

## ・相馬郡衛正倉跡

この跡地は日秀西遺跡で発見されました。古墳時代後期の竪穴住居の他、奈良平安時代の掘立柱建物・基壇建物などが確認されました。柱穴で見つかった炭化米から税として郡の役所が徴収した米を貯蔵した倉庫である正倉であることがわかりました。

奈良・平安時代の律令制政治の中心は下総国相馬郡の中心に位置付けられています。

「相馬御厨（そうまみくりや）」の成立を示す最初の文書は伊勢神宮所領の資料で1130年、下総権介平経繁寄進状写です。この平経繁は源頼朝に隨身した千葉介常胤が父で、その所領であった相馬郷を一括して伊勢神宮に寄進したことで「相馬御厨」が成立したとされます。

またこの寄進状によれば、手賀沼の呼び名の基となった「手下水海」（てがのみずうみ）が初めて文字として残っています。手賀沼の四至は「限東蚊虻境、限南志子多谷并手下水海、限西廻谷并東大路、限北小阿高并衣河流」とあり、布施郷は「和名抄」に見えない中世的郷で、おそらく平経繁の先祖が開拓領有した私営田で、現在の我孫子市及び沼南町域に布瀬の地名が残る四至中、「手下水海」は手賀沼のことをさしています。

## （2）鎌倉・室町時代

### ・鎌倉道

鎌倉と言えば我孫子に馴染み深い鎌倉道です。古道としての鎌倉道とは、鎌倉時代に幕府のある鎌倉と各地を結んだ道路網で、鎌倉幕府の御家人が有事の際に「いざ鎌倉」と鎌倉殿の元に馳せ参じた道であり、鎌倉時代の関東近郊の主要道で、また通信網として用いられていました。

湖北の鎌倉道は、東海道鎌倉より下総や常陸に向かう道とされます。東西に長い我孫子の官道は台地上をなるべく直線的に東西を貫通し、この官道に対して大きく外れ、谷津を横断したり、いずれにしても下道の枝路と思われます。特徴としては道幅が狭く見通しが悪く、水場としての井戸と小堂が点在しています。

地元伝承の「湖北鎌倉道」は、東へ諏訪神社、将門神社、香取神社、北へ辨天・葺不合神社、天満、稻荷神社、再び鎌倉道を西へ湖北駅を越えて天照神社、八幡神社、八坂神社と小堂が点在しているのが特徴で、当時の住人には生活道路としての道とされていたと推測されます。

### ・城跡

鎌倉時代の相馬氏は鎌倉幕府の有力な御家人としてこの地方を治めました。南北朝争乱以降相馬氏の勢力は衰え新たな武士団や在地土豪の勢力が強まり室町時代後期の戦国時代に入ります。この時代に色々な城が周辺に作られ勢力争いが起きていました。

中世の城は低地と台地が複雑に交錯している地域に多いようで、我孫子には10か所の城跡（根戸城、法華坊館、久寺家城、我孫子城、柴崎城、中峠城、新木城、羽黒前館、龍崖城、布佐城）が確認されています。

この城跡の形態上の特徴として、丘の頂部か中腹にあり、空堀とその土塁、曲輪と呼ぶ広場があることが挙げられ、この城跡は本来なにであったのか、その用途として考えられることは以下のようなことが列記されます。

- ① 武士の常設の戦闘拠点・居場所 = 狭義の城郭
- ② その時だけの戦闘拠点 = 塹壕、防塁、兵の集合場所等
- ③ 村人の避難場所・食料家財の緊急の隠し場所
- ④ 商業施設 = 略奪に備えて少々の防御機能を備えている
- ⑤ 村人の集合施設 = 同じく少々の防御施設を伴う
- ⑥ 有力者の屋敷 等々

ちなみに、前述①の「武士の拠点とされる場合の豪族」を調べてみると、

- ・根戸城：千葉氏の一族である相馬次郎左衛門、胤村の子である三郎、胤光が築いたとされ大堀川と手賀沼が接し、水上交通と陸上交通の接点となり戦略上重要な軍事拠点である。
- ・法華坊館：根戸三郎胤光か不明、所在地は我孫子市台田4丁目付近
- ・久寺家城：不明、中央学院大の手前で城域は宝蔵寺とその付近
- ・我孫子城：我孫子彦二郎か不明、所在地は電力中央研究所の敷地
- ・柴崎城：不明、所在地は我孫子第3小学校付近
- ・中峠城（芝原城）：川村氏、所在地は我孫子市中峠3849古利根公園内、古利根沼が大きく流れを変える場所に構築され、土塁や空堀などにより郭を作っている
- ・新木城：荒木三河守胤重、所在地は新木字五郎地にあったとされる
- ・羽黒前館：不明、所在地は羽黒前遺跡の跡
- ・龍崖城：不明、所在地は布佐字谷ツ山付近
- ・布佐城（和田城）：不明、和田義盛と関係があるという伝承がある

この様に何時から、誰が居城していたか記録がないものが多く、その城跡の用途としては、前述した②～⑤に記載された、集合場所とか防御施設、村人の避難場所として該当する用途で地域の人々が生活していたと推測されます。最後に文献が少なく、憶測、推測で記載したところについてはお許しください。

(参考文献：千葉県歴史 通史編古代2、市民による我孫子市研究、我孫子歴史散歩)

## 環境レンジャー活動報告(ネイチャーイン)

### 利根川と布佐の里道を散策しよう

(環境レンジャー 渡邊 茂実)

「布佐」という地名は、平安の頃からある古い地名で、明治の中頃までは利根川筋交通の要所でした。「布佐河岸」と言って魚類・雑貨の荷揚げ場や、セリ市場、回漕問屋、宿屋、茶屋などが軒を並べ、大いに賑わった所です。そうした歴史や伝承を偲びながらの散策です。

4/24(土) 天候快晴、一般参加16名、環境レンジャー6名、計22名の参加です。コロナ禍・感染防止に注意しながら、9時15分布佐駅東口を出発しました。

布佐駅より利根川方向へ進み、国道に出たところに「近隣センターふさの風」があります。ここは世界的気象学者「岡田武松邸」跡地で、当時の門扉や樹木などが残されています。また国道を挟んで成田寄り近くに「松岡邸」(旧「凌雲堂医院」)があり、ここは民族学者柳田国男の長兄で医師・松岡鼎(かなえ)の家です。国男は旧制一高時代ここで過ごし、友人田山花袋や島崎藤村等が来訪した所でした。



岡田武松邸跡地

続いて国道を我孫子方面へ少し歩き、橋下の階段を上がると「栄橋」の橋梁に出ます。水八景にも選ばれた広大な利根川の景色を眺めながら、「布佐河岸跡」「網代場跡(江戸時代は鮭の産地だった)」「なま街道跡」など、かつてこの一帯が栄えていた頃を偲びました。

国道に戻り、ここからは「新四国相馬霊場」札所である寺社を巡ります。かつて四国八十八カ所の霊場を相馬の国に写し、当時はお遍路さんが沢山通った寺社で、各々の寺社に「大師堂」が祀られています。二十四番札所「延命寺」、二十一番・三十七番札所「勝蔵院」・「愛宕八坂神社」、祭礼で名高い「竹内神社」などの寺社を巡りました。「竹内神社」で祭礼の説明を聞きながら休憩した後、成田線を横切り「布佐平和高台住宅」方面に進みます。



延命寺

「布佐平和台」は我孫子市の「景観奨励賞」や、国土交通省の「まちなみ賞」を受賞した美しい街並みです。住宅地をしばらく歩くと「布佐市民の森」があります。篠ノ越調整池を囲む約 2.7ha の広さを持つ緑地で、水鳥を観察する鳥見の広場などがあります。

森林浴を楽しみ、新緑の森を抜けると「旧井上家住宅」に着きます。井上家は江戸時代中期に「相島新田」を開拓した代々の名主でした。屋敷は歴史的景観を残しており、平成 24 年に我孫子市の「指定文化財」に登録されています。ゆっくりと見学し、江戸風の佇まいを楽しみました。

井上家を後にして、布佐下通りの一本北にある「ハケの道」を散策しながら布佐駅方面へ向かいます。「ハケの道」とは台地斜面の下にある湿地帯の道のことで、昔からの細い生活道路でした。村里の原風景を残した心地よい静かな小径です。布佐下の通りに戻った所が、四十七番札所「稻荷神社」です。ちょうど拝殿裏の藤棚が満開で、薄紫色の花房がたわわに下がっています。

「いい時期に来た」と歓声があがりました。皆で記念撮影。12時20分布佐駅南口に無事帰着しました。約4.7km、3時間の行程でした。参加者からは「普段通っている所だったが、案内されて説明を聞くと、新しい発見があって興味深かった。」「ずっと家にいたから、近所だったが歩いてスッキリした。コロナ感染の心配なかった。」「説明のプリントが欲しかった。」などの声が聞かれました。



## 環境レンジャー活動報告(ネイチャーイン)

### 谷津ミュージアムでホタル鑑賞会

( 環境レンジャー 渡邊 茂実 )

7/31（土）JR 東我孫子駅に集合、ホタル観賞は風が無く、月明かりの無い蒸し暑い夜が適しているといわれています。好条件が期待される中、注意事項の説明をしながら暗くなるのを少し待ちました。今回はコロナ感染予防のため、例年より参加募集を減らしています。参加者は一般から大人 28 名、子ども 20 名、運営側の手賀沼課職員、環境レンジャーを含め総勢 61 名でした。また、屋外とはいえ密を避けるために、全体を7つのグループに分けて、少人数で十分な距離をとっての行動をとりました。

午後 7 時 20 分、漸く暗くなってきた中を出発。今回は、谷津ミュージアム入口看板を過ぎた辺りから、チラホラとホタルの光が見えだし、ネムノキ通りからポンプ小屋付近までずっと、道端の草叢いっぱいホタルが群がっています。群れて飛んでいるホタルも観察されました。暗い闇の中で明滅する淡い光の波は幻想的で、夢の中にいるようです。男の子が服に止まったホタルを捕まえ、掌の中で光るホタルをいかに嬉しそうに覗いていました。大人たちも「毎年来ているがこんなに沢山いるのは初めてだ」「我孫子でこんなにホタルが見られると思っていなかった」「子どもにいいものを見せられた」など多くの喜ぶ声が聞こえました。



ポンプ小屋先の掲示板前で無事解散しました。今回は、参加者の感想にもあったように、例年になくホタルが多く、レンジャーからも「今年は豊作！」との声も。観察されたホタルは過去最多の621頭でした。カウント担当のレンジャーも疲れさまでした。

岡発戸・都部の谷津には、ホタルが生息できる環境が維持されている。大事なことですな！

- ・ホタルが生息できる環境って、どのような環境でしょうか？
- ・なぜ、岡発戸・都部の谷津には、そのような環境があるのでしょうか？
- ・昔は他の場所でもホタルを見ることができたのかな？なぜ、岡発戸・都部の谷津では今でも見れるのでしょうか？

**【ホタル豆辞典】**

・日本で知られるホタルは3種類で、日本固有種はゲンジボタルとヒメボタル。そして海外にも生息しているヘイケボタルになる。ゲンジボタルとヘイケボタルは水辺周辺で生息し、ヒメボタルは陸生になる。

我孫子で見られるのはヘイケボタル。

・ヘイケボタル(平家蛍)⇒ホタル科の甲虫で、体長は7～10mm。観察時期は7月～8月頃まで。ゲンジボタルより小形だが、ヨシが繁り豊かな水がある場所が生息地になる。体は黒色。幼虫は池や田んぼなど流れの無い、少し濁った溜り水でも住むことができる。成虫の寿命は7～10日位。

・ホタルの数え方は「頭(とう)」⇒一般的には「匹」だが、本来(統計・学術)は「頭」と数える。

**環境レンジャー活動報告(環境学習)**

**夏休み船上学習 — 船から見る手賀沼のふしぎ—**

( 環境レンジャー 野倉 元雄 )

7/28(水) 午前9時15分、子ども20人と大人13人、及び環境レンジャー等9人の合計42人が手賀沼ポート乗り場に集合し、夏休み船上学習の開始です。今年も昨年に続きコロナウイルスの感染拡大に注意して、遊覧船1隻の定員を半分に減らした上で船の数を2隻に増加し、三密の回避や消毒などの対策をした上での学習です。

乗船に先立ち、近年手賀沼の生態系を侵害しつつあり、遊覧船乗り場近くにも繁茂する特定外来植物のナガエツルノゲイトウ及びオオバナミズキンバイを観察しながらその特徴や旺盛な繁殖力、生態系への影響などの説明がありました。



続いて遊覧船に乗り込んで手賀沼一周のクルーズに出発です。お天気はやや曇り気味で、換気のため開放している窓からの風は沼の水で冷やされており、船が揺れることもなく上々の船上見学となりました。

最初は船から外を見て沼の水の色の観察です。子どもたちから「緑色」、「茶色」などの声がありました。後で環境レンジャーから教えてもらうことになって、前の方に見える赤い丸い鉄塔のある建物の話を聞きました。利根川から土手下のパイプを通して来た水を手賀沼に導水したり江戸川の方で水道に使うため送り出す役割の第二機場です。第二機場の近くには昭和20年代の頃まで水浴場だった跡があり、きれいな水質の手賀沼で子どもたちが水遊びをする写真を見てもいました。その後人口の増加と共に水質が全国ワースト1位という不名誉な時期が長く続きました。第二機場ができ、各家庭に下水道が普及した2000年ころから改善の成果がでて、現在に至っています。

船が進んで南西の方角に紺色のシルエットになった富士山をはっきり見ることができ全員大喜びしました。冬にはよく見られるのですが、夏に見ることは少ないのです。



手賀大橋の下を抜け、河童の像のあたりからは日本で唯一の鳥類専門の鳥の博物館が見えてきます。今日は暑い日で鳥の姿がなかなか見えないのですが下船するまでにはダイサギ、コサギ、アオサギ、カワウ、カルガモ、コバクチョウ、トビ、ハシボソガラスの8種類を観察できました。東に進むと右手に背の高い草が繁っています。手賀沼には水質のきれいだっただ頃には生えていた27種類の植物はアシ、マコモ、ヒメガマの3種類だけが生き残り、他はほぼ全滅しました。今日はそのうちアシ、マコモの2種類の実物を船内で観察し、葉のつきかたや特徴を教わりました。

観察している時に船の後ろで何かがあつたドスンという大きな音がしました。後ろを見ると1メートルくらいの大きな魚が次々と水面から1メートルくらいの高さにジャンプしていました。全員がびっくりです。魚は船の真横でもジャンプしたり、船内に飛び込んだのもいたので窓際の子どもの叫び声があがるほどでした。白く薄い色の魚なのでハクレンという中国からの外来魚とわかりました。中華料理になる魚でした。

船は更に東に進み中央という立札の水面で船長さんが水を透明の容器にすくってくれました。水の色は薄茶色で珪藻というプランクトンが多くいるためでした。その後、船は手賀沼の東の端でUターンして最初の船着き場に戻りましたが、最後にスカイツリーを見ることができ、手賀沼一周の楽しいクルージングを終わることができました。

### 環境レンジャー活動報告(環境学習)

「紙粘土工作」紙粘土で花瓶などを作ろう！～廃棄物利用で鳥や花を飾って～

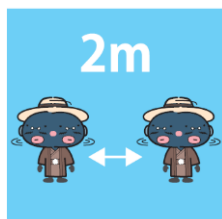
(環境レンジャー 佐藤 美次)

紙粘土工作は毎年小学校の夏休みの期間中に2週に亘り実施しています。今年は、第1週目は8/12(木)、第2週目は8/19(木)にアビスタで行いました。今年も紙粘土工作は新型コロナウイルス感染症の感染拡大対策を確保するため募集定員を20名とし、会場が密になることを防ぐため工芸工作室からより広いホールに変更しました。

第1週目は、子ども9名と大人7名、第2週目は、子ども11名と大人7名及び両日とも講師の先生夫妻と関係者である我孫子市職員2名、環境レンジャー5名でした。参加者の皆さんには事前の体調確認とマスクの着用をお願いし、換気を確保するためホールの窓は開けたまま行いました。



マスクをするうなあ～



人との間隔



講師の先生の「上手に作るコツ」をしっかりと聞いてます。(^^)/

最初に、子どもたちは講師があらかじめ準備した大小さまざまな空きびんから自分のイメージしている作品に合ったものを選び、講師から紙粘土で形を上手につくるためのコツの説明を受けました。それにはまず紙粘土に含まれている空気を抜くために粘土をしっかりとこむことが大切と、小さな手で懸命に全体重を使い粘土を押しつけていました。それから粘土をうすく伸ばし花瓶にまきつけて土台を作りました。

子どもたちは作成する作品のイメージが既にできていたようで、迷うことなく真剣なまなざしで粘土工作に取り組んでいました。第1週は紙粘土の塑像までで終了し、乾燥させるため次週まで作品を預かり別室に保管しました。



何度も何度も小さな手でこねてます



環境レンジャーのアドバイスも参考にします

第2週目は、乾燥した紙粘土作品に色付けをする日です。子どもたちは講師から美しく色付けするための要領を教えられた後、自分の思い描いている作品の色にあったアクリル絵具をパレットに入れてもらい、大小の筆を使い丁寧にゆっくりと色付けして行きました。色付けが終わった時は、最初の真っ白だった作品は子どもたちの独創的な色づかいで見違えるほどの素晴らしい作品に変わっていききました。色付け作業が完了した作品は講師により防水とツヤ出しのスプレーを吹き付けてもらって自慢の作品が完成しました。

空きビンが、世界に一つだけの素敵な作品になりました。

最後に完成した皆さんの作品を一同にテーブルに並べ、講師から「いずれも独創的で色使いも素晴らしい作品です」との講評をいただき、全員の集合写真を撮りました。子どもたちは自分の作品に満足しながらほかのお友達作品もじっくりと観賞していたのが印象的でした。

今年の紙粘土工作もコロナ禍のなか参加者皆様のご協力により無事に終えることができました。



「作品はどれも素晴らしいですね」と先生から！

自慢の作品にみんな大満足です！(^^)!

## 環境レンジャーのこれからの予定

詳しくは「広報あびこ」を見てね！

お申し込み、お問い合わせは、我孫子市手賀沼課（04-7185-1484（直通））まで

### 令和3年11月20日（土）

ネイチャーイン

秋の谷津の自然観察



時間：午前9時30分～11時

場所：JR東我孫子駅に集合

岡発戸・都部の谷津ミュージアムを散策し、秋の草花、木の実、昆虫、野鳥などの自然を観察しませんか。谷津の自然の新たな発見を感じ取りましょう！

### 令和3年12月11日（土）

環境学習

バードフィーダー作り



時間：午後1時～2時30分

場所：水の館3階研修室

いらなくなったペットボトルや牛乳パックなどを利用して、バードフィーダ（鳥のエサ台）を作ります。自由な発想でいろいろな作品を作り楽しみましょう。

※傷害保険代50円/人が必要です。

### 令和4年1月23日（日）

ネイチャーイン

手賀沼船上冬鳥観察会



（撮影者：吉田隆行さん）

時間：午前9時30分～11時

場所：手賀沼公園内ボートセンター小池前集合

たくさんの水鳥が集まる手賀沼の冬は野鳥観察のベストシーズンです。船上からの探鳥では陸からの探鳥と全く違った景色が満喫できます。猛禽類のミサゴやかわいいカワセミの姿も見られるかもしれません。我孫子野鳥を守る会との共催です。

### 令和4年2月19日（土）

環境学習

紙飛行機工作と飛行大会



時間：午後1時30分～3時30分

場所：アビスタホール

大人気！の紙飛行機工作と飛行大会。みんなで「スーと飛ぶ飛行機」「ふわふわ飛行機」「曲技飛行機」など作って、仕上げは一緒に飛ばして遊ぼうね。ビックリするほど飛ぶよ！

※傷害保険代50円/人が必要です。



### 《編集後記》

夏から秋へと季節も変わり、そろそろ木々たちも赤や黄色に色づく季節！いろいろな色を探しに、いろんなフィールドに出かけていきたいと思いますね。環境レンジャーもイベントを準備して、楽しみにしています。

『たまっけ』へのご意見、ご感想お待ちしております。

（環境レンジャー 継岡 伸彦）